



HIKARU FARM

はっとり ひかる
服部 輝さん

Profile

1991年栃木県生まれ。高校を卒業後、北海道の酪農学園大学で畜産と乳牛について学ぶ。その後藤岡市へ移住し、ナスとイチゴの栽培を行っている。

自らの力で育て、生きていく

大 学受験期から、将来は自分の力で生活していきたいという思いがあった服部さん。元々実家が農業を営んでいた、というわけではありませんでしたが、学生時代に農家に興味を持ち、北海道の酪農学園大学で畜産と乳牛について学び、その後農業に着手しました。

生まれは栃木県ですが、市内に祖母の土地があることから藤岡市へと移住をしてきました。「一から農業を始めるのは大変で、ある程度いろいろそろっているほうがスタートは切りやすい。土地や場所はあるしやってみるかと思いつた」と農業を始めた当時を振り返ります。

現在は主に夏場にナス、冬場にイチゴの栽培を行っており、品種はそれぞれ「くろべえ」と「やよいひめ」。生き物や天候などを相手にする仕事をしているため、大変なことが多く、試行錯誤しながらの毎日だそうです。「特に最近には異常気象が続いているので、夏の間で育てているナスやイチゴの苗を作るのが大変。自分で対策を

調べたり、毎日いろいろ考えている」と近年の農業を取り巻く環境の厳しさについて話します。さらに、農家として生きていくには、きっちり仕事をこなすことと、強弱の付け方が大事だそうです。「メリハリをつけることと、ポイントを押さえていくことが重要。それをおろそかにすると、後々の収穫物の質に影響してきてしまう」と真剣なまなざしで話します。

今後はイチゴの規模を拡大していき、さらには6次産業にも興味を持っているとのこと。「冬場に時間があればマルシェを出してみてもいいかなと思ってます」と思考を巡らせる一方で、いろいろなことに手を広げすぎて収穫物がなれないという状況にはしたくないと語る服部さん。「急に新しいことを始めるのは難しい。一つ一つできることからやっていかないとけないですね」と今後の展望について明るく語ってくれました。

服部さんの愛情によって丁寧に育てられた野菜や果物たちが、皆さんの食卓に並び、笑顔を運んでいるのかもしれない。